

各委員からの事前確認に対する回答

資料 2

※第1回分科会以降に各委員から寄せられた事実関係に関する確認について整理するもの

No	各委員からの事前確認	熊本市等の回答	報告書		
			頁	章	段落
1	本庁舎新築当時、建築基準法による検査済証は取得しているか。	H29調査当時は不明だったが、その後検査済証の取得を確認している。	2-5	2.1	(1)
2	構造部材断面調査（配筋調査）はどこで調査したのか。	当該調査は、構造上地下階での調査となるが、地下階は食堂などもあり、調査可能な箇所が限られていたため、1箇所とした。	2-13	2.2	(1)
3	鉄骨接合部調査は、目視確認したのか。	鉄骨接合部は、アスベスト含有の耐火被覆材がほぼ全面に吹付けられており、確認が難しい状況であるため、図面調査を実施した。	2-14	2.2	(4)
4	鉄骨接合部の調査が非常に重要。実際に調査できるような状況か。また、製作工場や超音波探傷検査の記録など、建設時の鉄骨の品質を確認するための資料は残っていないか。	アスベスト含有の耐火被覆材がほぼ全面に吹付けられているため、鉄骨接合部の調査は難しい状況。なお、製作工場や超音波探傷検査に関する資料が残っている。「本庁舎建設時の鉄骨関係資料【資料2-1】」を参照。	2-14	2.2	(4)
5	主要設備機器の据付状況の確認はどのように行なったか。	アンカーボルトの有無や劣化状況などを確認している。	2-14	2.2	(5)
6	解析モデルの固有周期は床スラブの剛性にコアやエレベーターシャフトなども考慮しているか。	コアやエレベーターシャフトなども適切に考慮してモデル化している。	2-31	2.3	(2)
7	サイト波の作成において対象とした断層は、第1回有識者会議での平田会長のご発表（地震調査研究推進本部の知見に基づいた熊本市における地震リスクについて）の内容と対応しているか。	対応している。布田川断層の宇土区間から八代方面はまだ破壊されておらず、今後ここが震源となる可能性があること、布田川断層と日奈久断層が連動すると大きな地震になること等を踏まえサイト波を作成している。	2-43	2.5	(2)
8	熊本地震の観測波はどこで測定されたものか。本庁舎と観測地点の地盤条件を確認したい。	中央区大江の中央消防署で観測されたもの。「H28熊本地震観測地点のボーリングデータ【資料2-2】」を参照。	2-54	2.7	(1)
9	ブレースはどのようにモデル化しているか。	新築当時の設計の際にブレースの実物模型の1/3のものをを用いて実験されており、その結果を踏まえてモデル化した。「本庁舎建設時の振動解析概要書（ブレース実験報告）【資料2-3】」を参照。	2-60	2.8	(1)
10	特定天井の条件は、天井高さ6m超かつ面積200㎡超の室であるが、国は、学校施設について、高さ6m超又は面積200㎡超の室に対して、天井改修を求めている。災害時の機能維持が求められる本庁舎についても同等の対応が必要なのではないか。この条件に合致する室は本庁舎にどの程度あるか。	天井高さ6m超又は面積200㎡超の室を整理した。「熊本市本庁舎等の天井について【資料2-4】」を参照。	-	-	-